

工大 広報

Tohoku Institute of Technology Magazine

No. **320**

2025.12 WINTER

東北工大の「いま」と「ミライ」が分かるマガジン

未来の
エスキースを
描く。

特集

LABORATORY REPORT 研究室通信

社会の継続的发展を支える
教育とジェンダー理解

ライフデザイン学部 経営デザイン学科
亀井 あかね 准教授

対話の観察と分析で探る
インタラクションの奥深さ

工学部 情報通信工学課程
井上 雅史 准教授

CONTENTS

P08 【TOPICS】 地域連携センター

P09 【TOPICS】 研究支援センター

P10 【TOPICS】 EVENT REPORT

P12 【TOPICS】 CAREER SUPPORT NEWS

P13 【TOPICS】 キャンパス通信



TOHOKU INSTITUTE
OF TECHNOLOGY

LABORATORY
Report

研究室通信 Vol.39

ライフデザイン学部
経営デザイン学科

かめ い

Kamei
Akane

亀井 あかね 准教授

PROFILE

東北大学大学院情報科学研究科で修士(情報科学)の学位を取得。2004年に東北大学の沢柳賞(東北大学男女共同参画奨励賞)を受賞。2007年4月から、同大学院法学研究科ジェンダー法・政策研究センター(現:ジェンダー平等と多文化共生研究センター)のCOE研究員を務める。本学には、2008年にライフデザイン学部経営コミュニケーション学科(現:経営デザイン学科)の講師として赴任。2023年に准教授となり現在に至る。

担当科目

地域経済学、意志決定論、論理的思考法、ICTビジネススキルⅡ・Ⅲ、ライフデザイン通論、各学年セミナーおよび卒業研究指導



【研究テーマ】

社会の継続的发展を支える
教育とジェンダー理解

充実した教育環境で学びを促す人的資本の投資により生産性が向上し、そして育まれた労働力や労働の質を世代間で受け継ぐことにより、発展的な生産が繰り返される過程が生まれると説く亀井先生。そのために、誰もが平等に責任や権利、機会を分かち合い、能力を発揮できる社会を目指すジェンダー平等への正しい理解も求めています。次世代を担う学生たちには、豊富な見識をもって社会の課題に取り組む姿勢を持つよう指導に注力しているそうです。



研究室の様子

身近な教育者の姿を目標に
社会経済に取り組む研究者の道へ

—— 本学に着任するまでの経歴を教えてください。

東北大学の独立研究科の一つとして創設された大学院情報科学科の都市社会経済システム分析研究室に所属し、地域経済、都市経済の学問領域について学びを深めました。そして、COE代表教員に請われ、東北大学21世紀COEプログラム「男女共同参画社会の法と政策—ジェンダー法・政策研究センター(Gender Law & Policy Center)」でCOE研究員を務めた後、本学の講師として招かれました。

—— 大学の教職に就いたきっかけとは。

家族や親の友人たちの多くが大学の先生で、そんな学術関係者ばかりの環境で育ったせいか、幼い頃から教職を将来のロールモデルとして当たり前のように思い描いていました。両親は私の性格をよく熟知していて研究者としての資質を見抜いていたようですし、母からは「好きなことを仕事にできたら、人生お得に生きられる」と諭されていたことも、私の進路に大きな影響を与えたと感じています。両親の思惑通りに大学の教員となりましたが、親世代の教育環境とは大きく変わってしまったなと感じています。

教育や訓練の経済的意義を考え 誰もが能力を発揮できる社会を

—— どのような学問分野に取り組んでいますか。

経済学の観点では人的資本論、社会学の観点では再生産論による社会経済学の研究に取り組んでいます。人間を資本と考えた場合、その生産性は何によって決まるのかを考察します。人間が労働市場において評価される要素は何かを考える際、就業年齢に達するまでにどの程度投資をしたかで決まるという考え方があります。ここでいう投資とは、教育や職業訓練などを指し、以前は学校教育が主たる要因として捉えられてきました。実はそれだけではなく、成長過程における社会経済的環境の要因も深く影響を及ぼしていると考えられており、そのような社会の仕組みの中で世代から世代へと生産が繰り返されていると考えるのが再生産論における観点となります。異なる世代が共存する経済を分析するオーバーラッピング・ジェネレーション・モデル(世代重複モデル)で所得移転を考える上で、社会学的観点の世代間の再生産の考え方が面白いと思い、そのような観点も取り入れながら現代の社会経済を分析、考察しています。



—— 昨今のジェンダー問題に関して。

性別に基づく不平等や偏見によって生じる社会的な課題であるジェンダー問題に関して、マイノリティーがどのように社会的に認知され、排除の方向から共助によって社会の中で等しく扱われるようになるか考えたのが、東北大の研究室でジェンダー論に取り組む最初の一步になりました。当初は、何とかして平等性を確保せねばと考えていたのですが、今ではそれは現実的ではないと考えています。この問題を扱う際、機会の平等と結果の平等を

履き違えないことが重要になります。社会構造上、結果の不平等を正しく受け入れないと社会がうまく機能しません。機能的な面で考えれば、「差異」があるからこそ社会は成立するのです。個人が自らの能力を最大限に生かし、チャンスと努力を尽くして得られた結果は尊重されなければいけません。社会経済において、質を担保した労働力を確保することは、人間社会を維持運営するために重要です。そのために、健全な環境下で教育により人間の生産性を高め、持続可能な社会を実現することが大切だと考えています。

世の中の出来事を他人事にせず 社会問題の解決を目指す力を養成

—— 教育に着眼点を置いた理由とは。

最初は学ぶことが楽しいという体験から始まり、学習を積み重ねることによって試験などで高い評価が得られ、次のステップに進むためのチャンスになります。このように教育とは人生を切り開いていくための術になるものだという認識から、それを学問として研究するならどのような学術分野が適当であるかを考えました。そうしてたどりついたのが人的資本論に基づく教育経済学でした。

—— 亀井先生にとっての「未来のエスキース」とは。

今ある現実を正しく認識しないと、将来なんて描くことはできません。現状の課題を把握するために、どのような要素が絡み合い、どういう問題が発生しているのかを、表層面にだけとらわれずに原因を追求する姿勢が、何事においても必要だと思います。世の中で起きているあらゆる問題が、実は他人事ではなくどこかで自分に必ずつながっていることも認識して欲しい。今すぐにその問題を直接的に解決する力はなくとも、原因を考えを巡らせ、また同じことが起こらないように改善方法を探る。より良き未来を描く思考力を身に付けるために、学生の時分だからこそ読書をしたりニュースに関心を持ったりして欲しいと願っています。



経済学の守備範囲は広い！
人間行動から企業行動まで



地域経済学の学習で使用する教科書類

COLUMN

おしえてください
研究者の「こころの中」



わたしと 昨今の観光：

「旅の喜び」を実感するためには
環境公害の解決を

2006年「観光立国推進基本法」成立以来、政府は訪日外国人観光客誘致と国内観光振興を進めています。「観光立国」の基本的な考え方は、①観光を国の基幹産業に成長させ、各地域の経済を活性化させる、②観光を通じて他国の人びととの交流により、国際感覚に優れた人材育成をする、③国内旅行者が「旅の喜び」を実感できる環境を整備し、国民の生活の質を高める、ことにあります。しかし、日本各地でオーバーツーリズムにより生活と観光が交差し、地域住民の生活環境や自然環境、文化遺産などに悪影響が発生しています。私が大学院生時代に年2回程訪れていた「京都」も観光公害の渦中にあります。以前は閑散期ならば、町屋の老舗旅館も割安に利用できましたが、現在は需要過多で二泊10万円台の価格の料金設定となり、なかなか手が出ません。円安も相俟って、国内旅行者は「旅の喜び」を実感できる環境からは程遠い状況にあります。

観光公害の解決には、①観光税・入場税の導入、②観光客総量規制、入域制限、③交通インフラ・ゴミ処理施設の整備そして④住民生活との調和が急務といえます。



最前線の研究をレポート!

LABORATORY REPORT

研究室通信 Vol.40

工学部
情報通信工学課程

いのうえ まさし Inoue Masashi
井上 雅史 准教授

PROFILE

1999年3月に国際基督教大学(ICU)を卒業後、奈良先端科学技術大学院大学の情報科学研究科へ進学。同大で2004年に博士(理学)の学位を取得。2004年4月から、国立情報学研究所で助手を務め、2007年に助教となる。2009年4月に山形大学大学院理工学研究科の助教に就任。本学の工学部情報通信工学科(現・情報通信工学課程)には2017年4月に准教授として着任し、現在に至る。

担当科目

データベース、統計学

【研究テーマ】

対話の観察と分析で探る インタラクションの奥深さ

人間同士の対話に見られる言語的・非言語的な特徴の分析や、人と相互作用(インタラクション)する知能システムの構築、メディア特性と利用状況の把握と活用法の探索などのテーマに取り組んでいる井上先生。収集したコミュニケーションデータの中にある細かな変化に目を凝らしながら、考察を深めています。その目線の先には、高度な人工知能を有するコンピューターやロボットが生み出すであろう、新しいコミュニケーションの可能性があります。



研究室の様子

手に取った本が後押しした 人間の理解を究める研究者の道

—— 人間について研究するきっかけとは。

高校生の時、人間が何かを認識する仕組みとはどのようなものなのか、不思議に思うようになりました。学問として学んでみたいという意欲はあったのですが、なかなかその手がかりとなるものを見つけれませんでした。そんな時、図書館に行って何気なしに本棚を眺めていたら、認知科学に関する書籍を見つけました。本を読むことで認知科学という学問領域の全体像をおぼろげながら理解することができました。私が抱いていたような疑問が研究対象となっていることを知ったことが、今の研究分野に進む最初の一步になりました。

—— 進路はどのように選んだのですか。

大学への進学を考えていた当時は、認知科学分野で活躍されている先生はいらっしゃいましたが、専門として学べる学部やコースは、ほとんど無かったように記憶しています。

そこで学際的な学びが可能な国際基督教大学の理系コースに進学し、その中で情報科学の分野を選択することにしました。学部卒業後、情報科学を専門分野としてしっかり学ぶために、奈良先端科学技術大学院大学へ進学しました。

会話の抑揚や身振り手振りなどから 特別な意味を見出す研究手法

—— 人やシステムの相互作用に関する研究とは。

典型的な例として挙げられるのは会話です。人はどうやって会話をうまく成り立たせているのか、会話がうまく噛み合わなくて失敗する時は何が起きているのか、実際に会話を録音したり映像を撮影したりして分析します。分析対象とした対話の例としては、カウンセリングがあります。カウンセリングの結果として問題解決につながったかどうかよりも、対話の中で何が起きているかに興味がありました。マルチモーダル分析という、言語と身振り手振りなどの非言語のふるまいとをあわせて観察する研究方法があります。そのためにビデオカメラで撮影するだけでなく、体にセンサーを付けて動きを計測する手法にも取り組んだことがあります。どんな質問や会話の内容の時にうなずきが増えるのかや、うなずきのタイミングを計測し、データの分析を行いました。また、カウンセリングを学んでいる学生と経験を積んだベテランとの比較を行い、どのような違いがあるのかも調べました。

—— 研究の応用先にはどんなものが考えられますか。

研究の成果が即座に先進機器やプログラムの開発につながるわけではありませんが、人間の会話について調べた知見をAIの対話システムに組み込めば、より自然で上手な会話ができるようになるのではないかと考えています。また、最近取り組んでいる研究では、VRゴーグルなどを使用した仮想空間のシミュレーション体験の中で、現実世界をどこまで反映できるのかを調べています。実用的な場面で例えると、パソコン上で部屋の間取りを再現して家具や照明機器などを配置する3Dシミュレーション体験の中で、スキャナーで取り込んだ仮想の物体をいかに現物と近く感じているかを明らかにするような研究です。この研究は、VR機材の



ロボットを動かすプログラムを作成



仮想空間の中のオブジェクトを操作

改良やソフトウェアの開発を直接の目的とするものではありませんが、仮想環境の活用の幅を広げるために役立つと考えています。

東北の地で未知の体験や感動を通じて 心躍るような未来図を描く

—— 研究室の学生はどんな研究テーマに取り組んでいますか。

人々とロボットがどのように関わり合うべきか、どのように共生していくべきかを考えるヒューマン・ロボット・インタラクション(HRI)という学術分野があります。お掃除ロボットなどの人型でない単純なロボットを使い、私たちの生活の中でどんなコミュニケーションが発生するのか考察する課題に取り組んでもらっています。プログラムで地上走行ロボットやドローンなどを操作し、動作に対する人間の反応を見るような実験を行っています。その他にも、人工知能の高度化に伴って日々発展している対話システムが、どのようなコミュニケーションの癖を持っているかを調べている学生もいます。



—— 井上先生にとっての「未来のエスキース」とは。

東北が面白くなっていくような、そんな未来図です。これまで関東や関西に移り住んで学んだり働いたりしてきました。そこでは商業文化や歴史遺産などの点で、地方とは違う面白さを感じる機会がありました。東北では、土地の面白さがまだ未開拓であるように感じることがあります。山形に住んでいたときに、以前から知っていた山形国際ドキュメンタリー映画祭に関わらせていただく機会がありました。地元の人々の手で独自の文化を作り上げていく躍動感や面白さに触れ、とても感動しました。簡単ではないと思いますが、東北の各地で様々な文化がこれから生まれていく可能性があるのではないかと考えています。



COLUMN

おしえてください
研究者の「こころの中」

わたしと
趣味

どこから
趣味がはじまるか

「趣味は何ですか」と聞かれたときに、「特になんかです」と答えてきました。そのたびに、なにかしら人に話せるような趣味を持ちたいものだなとうっすら感じていました。

始めてみたい趣味はいくつかあって、作曲や楽器演奏は常に頭の中にありました。ただ、どちらも時間をかけなければならぬ趣味であり、ろくに練習できないまま挫折しそうな予感があるため、空想するだけです。

本格的な趣味ではないけれども、昔はスポーツタイプの自転車に乗って少し遠出したりもしていたのですが、その自転車もずいぶん長く寝かせたまま埃をかぶっていました。「せっかくだからあの自転車を修理したら」という予想外の子供の言葉をきっかけに、思い切った程度のお金をかけて、また乗れるように修理に出すことにしました。修理から戻った自転車を出かけるのが楽しみです。行き先はおそらく近所のコンビニぐらいかと思うので、趣味になるのかは分からないのですが。





ホンネで

教員×学生

Lab Talk!

研究室対談

ライフデザイン学部 経営デザイン学科 地域経済学・社会情報学研究室

亀井先生 橋本さんとは、新入生を対象にしたセミナーが初対面の場所でしたね。

橋本さん そうですね。先生はハキハキとしっかりとした口調でお話しをされる姿が印象的でした。今では、いろいろと相談にのってくれるので親しみを感じています。

亀井先生 お互い筋肉トレーニングが共通の話題になっていますね。

橋本さん 先生が、ソフトビルダーの手前まで鍛えて

橋本さん お気遣いありがとうございます。研究の完成のために何かアドバイスをいただきたいです。

亀井先生 そうですね、調査設計の段階まで達しているの、今後は念入りなデータ採取が肝心となります。若年層の思考調査が要となるので、18歳から22歳の学生たちが自動車に対してどのような意識を持っているのか、どのような環境で自動車に関わってきたのか、それぞれが持っている意識の違いについて丁寧に聞き



意識調査を実施。

マイカーに関する

同世代の若者たちへ

研究のテーマに

身近な興味の対象を

かめ い
亀井 あかね准教授

はし もと しゅん
橋本 駿さん

いて、フルマラソンにもチャレンジしているアスリートと聞いてビックリしました。

亀井先生 東京マラソンも完走していますよ!

橋本さん 研究室にトレーニング機器があるのも納得です。

亀井先生 橋本さんは、「中古車市場と若年層の車離れに関する調査研究」をテーマに、これから研究を本格的に進める予定ですね。

橋本さん 父親が中古車販売の会社を経営していて、私も将来的に自動車関係の仕事に就きたいと思っているので、このテーマを選びました。

亀井先生 研究室の3年生の中では、進行度は良好ですね。橋本さんには余裕を持って研修に取り組んでもらい、4年生の卒業旅行を存分に楽しんでもらいたいと思っていますので。

取りを行ってください。

橋本さん 地域の特性も考える必要がありますよね。

亀井先生 仙台市内外の在住か、自宅か一人暮らしか、仙台のまちづくりに関する情報なども加味して分析する必要があると思いますよ。

橋本さん とても参考になります。それと、筋トレに関してもアドバイスがほしいです!

亀井先生 食事管理は重要です。鶏のささみや豆類などで、良質なタンパク質を摂取してください。筋トレの合間と直後のプロテインは忘れずに。

橋本さん 食事内容のご指導まで…ありがとうございます!

亀井先生 あ、でも筋肉に特化し過ぎる食事内容だと低血糖になりがちなので、ちゃんと研究が進められるようバランスの良い食事を心がけてくださいね。

研究活動を通して、日々繰り返されている先生と4年生の対話。
そんなお互いのリスペクトに満ちたトークに耳を傾けてみませんか。

過去の対話は
こちらから！



工学部 情報通信工学課程 インタラクシオン工学研究室

井上先生 種市さんは、2年生の時に統計学を受講しましたね。

種市さん はい、ちょっと難しそうに感じたんですが、実際に先生の講義を受けたら分かりやすくて、課題もそれほど苦勞せずに取り組みました。

井上先生 今まで分かりやすいと言われたことが無かったので、ほめてもらってうれしいです。種市さんは私が担当しているプログラミング実践も受けていましたね。

ので、まずは基本となるデータ作成にしっかりと取り組んでください。

種市さん はい、頑張ります！システムづくりにも、地道な作業が大事だということですね。来年度の春、仙台のIT企業に就職が決まっているので、この研究室で井上先生から学んだ心がけや考えをちゃんと仕事にも活かしたいと思います。

井上先生 確か、種市さんは青森県黒石市で生まれ



たね いち ゆう と
種市 悠人さん

いのうえ まさ し
井上 雅史准教授

課題で提出してくれたオセロゲームの完成度の高さに感心しました。

種市さん 高校生の時、テレビゲームのプログラマーになるのが将来の夢だったので、自分の得意分野でアピールしました。

井上先生 なるほど、それで合点がいました。種市さんには、自治体の研究所との共同研究として「ヒヤリ・ハットのデータの分析」に取り組んでもらっていますが、実際にデータに触れてみてどうですか？

種市さん 道路交通における危ないと感じた出来事の報告を集めたものですが、膨大なデータ量に正直、驚きました…。

井上先生 コンピューターの自動処理に任せたいところですが、そのためには手作業でデータを分類してラベル付けした上でプログラムに学習させなければならない

育ったんだよね？

種市さん はい、そうです。先生は青森にいらっしゃったことはありますか？

井上先生 旅行で何度か。最近行った八戸市が楽しかったですね。

種市さん それは何よりです！私が生まれ育った黒石市は、日本三大流し踊りの一つで毎年夏に開催される「黒石よされ」が有名です。スキーやスノーボードなどのウィンタースポーツも盛んですよ。

井上先生 「黒石よされ」は初めて聞きました。家族でスキーを楽しむので、ウィンタースポーツが楽しめるというお話には興味が湧きますね…。

種市さん 機会があれば、ぜひ黒石にも足を運んでください！

地域連携センター【CRC: Center for Regional Collaboration】

地域の課題解決や活力創出に貢献するべく事業を展開しています。

◆ 令和7年度「地域未来学」現場実習を開催

9月10日(水)に、福島県浜通りで「地域未来学」現場実習を開催し、「福島ロボットテストフィールド」「CREVAおおくま」「大熊インキュベーションセンター」の3施設を訪問しました。各施設で、地域課題や持続可能な社会の実現に向けた取り組みを間近で学ぶ、大変貴重な機会となりました。



福島ロボットテストフィールド



CREVAおおくま



大熊インキュベーションセンター

◆ 第17回「まちなか博物館講座」を開催

東北工業大学地域連携センター「テクロビ(TECH-LOBBY)」エスキースルームにて「まちなか博物館講座」を開催しました。

対面受講とオンラインを併用したハイブリッド形式で実施し、多くの方にご参加いただきました。

講座では、徳川十五代将軍それぞれが愛用した甲冑や太刀について、その個性や特徴を詳細に解説いただきました。



会場の様子



〈第17回〉9月27日(土)
「武家のシンボル 甲冑・刀剣の魅力
—徳川十五代将軍展のみどころ—」
講師:小田嶋 なつみ(仙台市博物館 学芸員)

◆ 令和7年度市民公開講座のご案内 2025年6月13日(金)～2026年2月6日(金)

工学や建築、デザイン、人文社会系、一般教養まで、様々な分野の講師陣による講座を提供しています。詳細は、本学Webサイトをご覧ください。皆さんのご受講をお待ちしております。

※講座はWeb会議システムZoom(ズーム)で受講することができます。事前申込み制で、参加費無料です。

全講座オンライン配信



令和7年度 東北工業大学「市民公開講座」スケジュール(12～2月)

開催予定日	時間帯	課程・学科・センター	職位	講演者	講座題目
12月5日(金)	18:00～19:15	建築学科	講師	畑中 友	地震被害から学ぶ安全な建物の考え方
1月9日(金)	18:00～19:15	経営デザイン学科	准教授	亀井 あかね	地域経済の課題2 コンパクトシティ政策と交通の利便性
2月6日(金)	18:00～19:15	都市工学課程	教授	権 永哲	液状化しない地盤を見つけ出せ ～地震による地盤被害の低減への新たな試み～



研究支援センター【RSC: Research Support Center】

企業及び各種団体との共同研究や受託研究を推進し、科研費等の外部資金研究開発推進等を行っています。

◆ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHIの実施

ふな き なお き

船木 尚己 教授(建築学部 建築学科)

「きみも今日からエンジニア - 地震に負けない建物を考えてつくってみよう」

7月19日(土)、20日(日)に八木山キャンパス実験・教育棟Tech-Lab(てくらぼ)で船木 尚己 教授と畑中 友 講師が小学5、6年生を対象とした講座を実施しました。本講座は、小学生が講義と模型実験を通して、地震や津波に強い建物の仕組みを体験的に学ぶことで、建築学を身近に感じ、科学やものづくりへの興味を深めてもらうプログラムです。

参加した小学生や保護者からは「自分の考えが実験で確認出来て良かった」「大学の施設や設備を見られ、実験も出来て良い機会になった」などの声がありました。

※本プログラムは、JSPS 科研費 25HT0020 の助成を受けたものです。



講義の様子



津波に強い建物を作る実験

なかむら たく み

中村 琢巳 教授(建築学部 建築学科)

「気仙大工の歴史やデザインを学び、伝統の建築技術と大工道具を体験しよう!」

9月20日(土)に中村 琢巳 教授が陸前高田市で中学生・高校生を対象とした講座を実施しました。本講座は、建築史研究室(指導教員:中村 琢巳 教授)が被災からの復旧調査や展示デザインに協力した岩手県指定文化財・旧吉田家住宅主屋の見学と、企業博物館・竹中大工道具館の技能スタッフの技術指導の下、ヤリガンナや鉋削りの伝統技術体験を実施しました。

参加した中学生・高校生にとって、大学の研究活動の最前線と地域に根差した伝統技術に直接触れたこの貴重な経験が、今後の学びや進路を切り拓く、大きな力となることを心から期待しています。

※本プログラムは、JSPS 科研費 25HT0021 の助成を受けたものです。



岩手県指定文化財
旧吉田家住宅の見学



竹中大工道具館技能員による
伝統技術の指導

◆プロジェクト研究所活動紹介

東北のデザインとアート研究所

さかがわ ゆう き

坂川 侑希 講師(ライフデザイン学部 産業デザイン学科)

地域創生が叫ばれている昨今、地域を豊かにするための方法としてデザインとアートが注目されていますが、その意義は未だ浸透していないのが現状です。そこで本研究所では、東北の地域資源や「らしさ」に着目し、産官民と連携しながらデザインとアートによる地域創生と課題解決に取り組み、デザインとアートの価値や魅力を地域に浸透させるだけでなく、東北の未来を描くことができる人材の育成も目指していきます。



サンモール一番町商店街の魅力を発信する
映像の制作



本町商店街の「らしさ」を発信する
プロジェクトの成果報告会



「仙台げいのうの学校」との協働企画:郷土
芸能を子どもに伝えるためのワークショップ



端切れを生かしたペットボトルホルダー
(株式会社永勤染工場との産学連携プロジェクト)

EVENT REPORT

ぱれっと
第50回工大祭『五十彩』開催

令和7年度第50回工大祭「五十彩」が10月11日(土)・12日(日)に開催されました。10月11日(土)には「宮城のおーちゃん」や「Cha'R」などによるステージ企画で盛り上がりを見せ、10月12日(日)には「ヤングスキニー」によるアーティストライブもあり、昨年以上の大盛況となりました。

今年は他にも、酒類の提供も行ったナイトパーティーの「夜光彩」や花火の打ち上げもあり、昨年とは異なるまったく新しい工大祭として、来場者に工大の魅力を伝える大きな成果が得られました。



屋台の様子



開会の挨拶



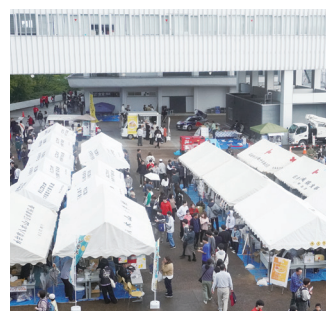
八木山キャンパスで打ち上げた花火



課程・学科企画



ダンスパフォーマンス





実行委員長挨拶

第50代 大学祭実行委員長

ライフデザイン学部 経営デザイン学科 3年 千葉 風雅さん

第50回工大祭「五十彩」にご来場いただいた皆さん、誠にありがとうございました。楽しんでいただけましたでしょうか？

第50回工大祭「五十彩」は雲行きが怪しい天候の中での開催になり、雨も降ってしまいましたが一日目、二日目ともに盛り上がりを見せ、たくさんの方に楽しんでいただいたことをうれしく思います。

今年度は記念すべき50回目という事もあり「どうすれば今年度らしさができるか」、「どうすれば50回目にふさわしいものができるか」などたくさんの葛藤や悩みを経て、実行委員会一同で工大祭の準備・運営をしてまいりました。その結果、当日会場は多くの方々の笑顔であふれていたと感じています。

工大祭運営に携わってくれたクラブ・サークルの皆さん、私たちを後押ししてくれた先輩方、企業の皆さま、ご支援くださった教職員の皆さま、ご協力・ご参加いただいたすべての皆さまにこの場をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。来年度は第51回となりますが節目の後の工大祭ではなく、さらにパワーアップした工大祭を皆さんに届けてくれると思いますので、来年もぜひ楽しみにお待ちください。



スポーツ大会を開催

第50回工大祭前日の10月10日(金)、スポーツ大会が開催されました。今年度は、フットサル、ソフトボール、バレーボール、バスケットボールの4種目で行いました。

選手の皆さんの一所懸命に競技に取り組む姿、メンバーを

鼓舞する仲間の姿が多々見受けられ、第50回という節目にふさわしいスポーツ大会となりました。

全員が笑顔で競技に取り組み、大きな怪我もなく、無事に大会を終えることができました。



CAREER SUPPORT NEWS

就職活動を力強くバックアップする大学の取り組みについてご紹介します。

◆イベントを活用し主体的な情報収集を



就職委員長 ^{つのだ ひろし} 角田 裕 教授(工学部 情報通信工学課程)

就職活動は自分の進路を決定する重要な活動であり、納得のいく就職活動とするためには情報収集が欠かせません。そのため、単に受け身の姿勢で情報を待つだけではなく、自ら積極的に収集し、主体的に取捨選択することが重要です。本学では、宮城県内企業見学会、U・Iターン合同企業研究セミナーなど、企業や自治体の

方の「生の声」を聞く機会を豊富に提供しています。加えて、今年度新たに東北芸術工科大学、東北生活文化大学と合同でデザイン系企業を集めた企業研究セミナーも開催しました。これらの機会を最大限に活用し、低学年のうちから主体的に参加することで、納得のいく就職活動を実現してください。

◆宮城県内企業見学会を開催【第1回:8月4日(月)～6日(水)、第2回:9月16日(火)・17日(水)】



ホーチキ株式会社



株式会社アクティオ



株式会社SJC

昨年度に引き続き、学生の職業観醸成教育の一環および地元企業の魅力を伝えるため、全学生を対象に「宮城県内企業見学会」を開催し、43名の学生が参加しました。

宮城県内の企業18社にご協力いただき、5日間で5コース(ハウスメーカー、製造、情報、商社・リース、デザイン・広告・印刷)を実施し、企業概要の説明や社内の案内、OB・OGからの講話などをしていただきました。

◆U・Iターン合同企業研究セミナーを開催【8月7日(木)】

昨年度に引き続き、学生の職業観醸成教育の一環および地元企業の魅力を伝えるため、全学生を対象に「U・Iターン合同企業研究セミナー」を開催し、50名の学生が参加しました。

宮城県内を除く、東北5県と新潟県の企業22社および5自治体にご協力いただき、各県ごとに6ブースに分かれオンラインで実施し、企業概要や仕事内容の説明などをしていただきました。

◆3大学合同デザイン系企業研究セミナーを開催【10月25日(土)】

今年度初めて、東北芸術工科大学および東北生活文化大学と共催で、「3大学合同デザイン系企業研究セミナー」を本学八木山キャンパスにて開催し、約300名の学生が参加しました。本セミナーは、デザイン関連企業を志望する学生と企業との出会いを促進し、学生

の早期キャリア形成を支援することを目的としたもので、デザイン事務所や広告制作会社、メーカーなど29社にご協力いただき、企業概要や現場で求められるスキルなどを説明していただきました。



キャンパス通信

◆2・3年生全員が受講する「キャリアデザインII・III」の授業で「未来のエスキースを描く。」の実践に向けた講話を実施

2023年4月より新たなスローガンのもと、「東北工業大学ブランディングプロジェクト」を実施しています。

その一環として、2・3年生全員が受講するキャリア教育の必修科目「キャリアデザインII・III」の授業で石井 敏 副学長が「未来のエスキースを描く。」の実践に向けた講話を行いました。

講話では、スローガンの意味や本学が目指す大学像を説明するとともに、「一人一人が自らのキャリアや将来像について、どのようなエスキースを描いて行くのが大切。夢や目標を持って意識して活動して欲しい」と、学生にメッセージを伝えました。



授業の様様



エスキースの描き方についての講話

◆産業デザイン学科 デザイン経営研究室(指導教員:下總 良則 准教授)が地域連携事業で取り組んだGhee(バターオイル)のパッケージデザインがグローバル市場で公開

9月25日(木)~28日(日)、インドのニューデリーにあるバーラト・マンドパムで開催された「World Food India 2025」※において、ライフデザイン学部 産業デザイン学科 デザイン経営研究室(指導教員:下總 良則 准教授)とともに地域連携事業でパッケージデザイン開発に取り組んだ「H2 Milkfarm」が、同事業で開発したデザイン案を採用したGhee(バターオイル)を出品し、そのデザインがグローバル市場で公開されました。

この地域連携課題に取り組んだのは2025年度のデザイン経営研究室(指導教員:下總 良則 准教授)の研究室に所属する学生たちで、下總准教授がアートディレクションを務めました。

提出されたデザイン案の中から4年生の高柳 風牙さんのデザインが採用されて商品化となり、今後は日本国内への展開も検討されています。



学生たちが取り組んだパッケージデザイン

※World Food India 2025

インド国内外の企業や投資家、政策立案者を結ぶ国際的な食品産業展示会であり、インドの食品産業の成長および国際競争力向上に欠かせない重要なプラットフォームとして位置づけられています。

◆建築学部主催「建築設計課題バーティカル・レビュー」を開催

10月25日(土)、アーバンネット仙台中央ビル1階 イノベーションスペースで、建築学部主催「建築設計課題バーティカル・レビュー」が開催されました。

東北工業大学 建築学部では、学部4年間で多様な設計製図課題が設定されています。

これまでは、同じ学年が同じ土俵で評価を受けていましたが、本企画では今まで交わることのなかった各学年の優秀設計作品を学年横断で、同じ土俵で評価・講評することで、今まで育まれにくかった学部内での縦の学生間交流や作品理解が深まりました。



◆「第18回 秋の八木山フェスタ2025」が開催

11月3日(月・祝)、本学と八木山地域周辺企業・団体が共催する「第18回 秋の八木山フェスタ2025」が開催されました。

本学の企画は八木山市民センターを会場に、ブーメランワークショップや缶バッジ作り、津波に強い建物作りの体験が行われました。さらに、カルメ焼き実験コーナーや日光写真オリジナルカードデザイン、キーホルダー作り、VR体験ができる場も設けられ、家族連れや子どもたちの声が会場にあふれました。また、八木山ベニランドでは吹奏楽部とダンスサークルによるパフォーマンスも行われました。

多くの来場者に、本学について親しみを感じてもらえる楽しい催しとなりました。



◆短期留学プログラム報告会2025を開催



11月5日(水)に短期留学プログラム報告会2025を開催しました。

報告会では、実際に今年度の短期留学プログラムに参加した学生からの報告、留学に関する質問・相談をする座談会を行いました。

参加した学生が留学や国際交流の理解を深めることができる非常に充実した会となりました。

お詫びと訂正

2025年10月号(No.319)のP15にて、右記の誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

誤	正
享年98歳	享年99歳

脳 からくり部

部長
かべ りと
加部 流己斗さん

工学部
電気電子工学科2年



クラブ・
サークル
紹介

あなただけのロボットを作ってみませんか？



脳からくり部は現在、13名の部員が活躍しており、様々なロボット技術を学び、製作を行っています。私たちの主な活動内容は、アルミ加工や3DCAD、Arduinoを

使ったプログラミング、そして電子回路の設計です。部員の多くは初心者ですが、皆で協力し合いながら、技術を学び、教え合うことを大切にしています。

今年度は「工大サミット」の「ROBO-ONE」という二足歩行型ロボット同士のボクシング対決大会に参加しました。初心者が多い中でも、機体のメンテナンスや操作を楽しみながら学ぶことができ、

貴重な経験を積みました。

さらに、来年度の「知能ロボットコンテスト」に向けて、新しいロボットの製作に取り組んでいます。日々の活動で習得した技術を活かし、より高度なロボットの製作にチャレンジしています。

活動日は自由で、部員は自分のペースで学びながらロボット作りを進めることができます。あなたもぜひ、部員と一緒に世界に一つだけのロボットを作ってみませんか？

数字で見る工大 ～就職率(2024年度)篇～



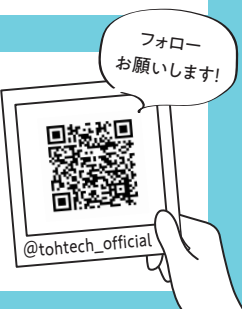
キャリアサポート課および長町キャンパス事務室、各課程・学科の就職担当教員を中心に全学をあげて充実したサポート体制を整えており、専門的な4年間の教育は多くの企業からも高い評価を得ています。



公式Instagram更新中！



大学の最新情報やリアルな学生生活の様子などを投稿しています。



フォロー
お願いします！

@tohtech_official

Schedule 2025年度 12～3月の主な行事予定

- | | |
|-----|--|
| 12月 | ●専門学科・総合学科選抜、
公募制推薦型選抜、
公募制推薦型女子特別選抜
12日(金)
●冬季休業
26日(金)～1月6日(火) |
| 1月 | ●大学入学共通テスト
17日(土)・18日(日)
●後期定期試験
27日(火)～30日(金) |
| 2月 | ●一般選抜A日程
4日(水)・5日(木)
●後期成績発表、追・再試験時間割発表
10日(火)
●後期追・再試験
16日(月)～20日(金) |
| 3月 | ●一般選抜B日程
5日(木)
●卒業生発表
9日(月)
●学位授与式
19日(木)
●進級者発表
25日(水) |

表紙の声



ライフデザイン学部 経営デザイン学科3年
はしもと りゆん
橋本 駿さん

高校時代はサッカー部に所属し、トレーニングで汗を流すのが趣味というスポーツマンの橋本さん。卒業後は、自動車に関わる仕事に就くことを目標にしており、卒業研修も家業である中古車販売に関するテーマで学生たちにヒアリング中です。

東北工業大学 ブランドスローガン

未来の
エスキースを
描く。

このブランドスローガンは、本学の建学の精神に基づく基本理念を端的に表現するとともに、本学が歩むべき未来への強い意思を表すものとして2022年に制定しました。

本誌「LABORATORY REPORT」では、本学教員それぞれが描く「未来のエスキース」についても語ってもらい、その信念や展望に迫ります。



東北工業大学ブランドサイト
<https://www.tohtech.ac.jp/brand/>

工大広報 No.320 2025年12月1日発行(年4回発行)

発行：東北工業大学

〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35番1号

TEL: 022-305-3144(入試広報課)



バックナンバーは
本学Webサイトより
ご覧いただけます。

<https://www.tohtech.ac.jp/outline/kodaikoho/>



公式X
@tohoku_koudai



公式Instagram
@tohtech_official